2024年4月1日

通信教育部成績評価ガイドライン

1. 目的

通信教育部における教育の質を保証し、かつ、社会からの信頼性を確保するため、シラバスにて明示・公開されている授業の到達目標および評価方法・評価基準に基づいて厳格かつ客観的・公正な成績評価を行う。

2. 成績評価

(1) 成績評価の評価区分

成績評価は4段階による評価区分とし、合格はA（100点～85点）、B（84点～70点）、C（69点～50点）と表示し、不合格はD（49点～0点）と表示する。ただし、授業形態（演習・実習等）、科目の特性（インターンシップ等）などにより4段階評価が困難な場合には、通信教育運営委員会の審議を受けて、「P/F評価」（合格・不合格）を行なうことができるものとする。

(2)「到達目標」の基準（2024年度シラバスより対応）

成績評価の基準は以下の表のように設定し、合わせてシラバスにおける到達目標を「現実的かつチャレンジングなレベル」として、原則として「達成した段階でB評価となる」ように成績評価の基準を統一する。基準統一化の目的は統一された成績評価基準から、学生は自分の達成状況を認識できるようになり、そこから一層能動的に学修に取り組めるようにすることにある。

なお、科目特性等の事情により、他のレベルで設定する場合は、設定レベルを明記し記述するものとする。

≪成績評価の基準≫

A	B	C	D（不可）
100点～85点	84～70点	69～50点	49点～0点
到達目標を十分に超え、期待している以上のレベルに達している	≪到達目標≫ 到達目標を達成したレベルにある	到達目標に対してやや努力を必要とするレベルで、かつ、単位取得を認める合格最低ライン	到達目標まで相当の努力を要する

(3) 絶対評価による成績評価

通信教育部の評定は「絶対評価」にて行うものとする。

絶対評価において、厳格で客観的・公正な成績評価に努めるために、①明確な到達目標、②到達目標設定に対する説明責任（設定の根拠・理由の適切な説明）、③客観的な評価が必須になる。つまり、到達目標に対応して成績スコア（0～100点）を明確に説明できるように評価することが重要となる（第三者への説明が可能となるようにする）。

(4) オムニバス・複数クラスでの成績評価基準

オムニバス科目や複数クラスでの開講科目（語学科目等）の成績評価の基準・方法については、担当教員間で充分に協議をして設定するものとする。

3. 成績評価方法およびその公表

(1) GPA制度の導入

GPA制度を導入し、その詳細は「創価通信教育部履修規程」に定める。

(2) 成績評価の基準・方法の公表

成績評価の基準・方法については、年度当初にシラバスにて公表するものとする。

⑶ 多元的評価

公正で妥当な評価を行うために、最終試験（科目試験及びスクーリング試験）のみでなく、
レポート（印刷授業）は、「課題把握」「教材理解」「論理構成」「原稿作法・文章作法」の４項目をＡ～Ｄの４段階で複数の視点から評価し、「総合評価（Ａ～Ｄ、Ｄは再提出）」によりレポート全体を評価することとする。
スクーリングは、「スクーリング試験」「メディア授業学習報告書」「実技・作品等」「授業中の平常点（小テスト・課題等）」を考慮して多元的に評価することとする。
なお、シラバスでは、評価項目ごとに評価割合を明示する（例：科目試験 80%、レポート 20%）。

＊「印刷授業としてのレポート」の提出が併用される科目における成績は、通教内ルールとして、印刷授業レポートを 30%として評価を行う。

⑷ 評価項目（評価基準）の明示・公開（2020 年度シラバスより対応）

シラバスにおいて、⑶ で設定した諸評価項目において、どのような点をどのように評価しているのかという「評価基準」を明示・公開する。

（参考）到達目標や評価項目において用いやすいキーワードとして以下のようなものが挙げられる。

知識の理解、知識の定着度、理論の応用、コミュニケーションスキル（読み、書き、話せる等）、数理的スキル、情報リテラシー（多様な情報の収集・分析・活用等）、論理的思考、多元的思考、問題解決力（問題発見、情報の収集・分析・整理、問題解決）、自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、社会的責任感、生涯学習力、学習意欲・積極性など。

⑸ スクーリングにおける最終試験受験資格

スクーリングを実施する科目については、原則、スクーリングの対面的授業に１時限以上の欠席もしくは２時限以上の遅刻・早退をした場合には最終試験の受験資格を認めない。

4. 採点及びレポート・答案の扱い

⑴ 科目試験・スクーリング試験答案

① 答案の採点は予め作成された成績評価の基準に基づいて行う。
② 通信教育部事務室は採点後の答案を２年間保管する。

⑵ レポート（印刷授業）

① レポートの採点は予め作成された採点基準に基づいて行う。
② 事務局は採点後のレポートを２年間保管する。

5. 通信教育部での GPA の運用

⑴ 厳格で適正な成績評価を実践し、履修指導を行うために GPA を活用する。
⑵【成績評価についての組織的な事後チェック】通信教育部自己点検分科会等において、適時、GPA の分布を確認・分析し、その後の教育活動の向上に努める

6. 成績評価に関する質問・疑問の受付

⑴ 成績発表後、一定期間を設けて、教員は学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付け、真摯に対応するものとする。その手続きについては「創価大学通信教育部における成績評価に対する問い合わせに関する細則」に定める。
⑵ レポートを返却後、教員は学生からのレポート評価に関する質問・疑問等を受け付け、真摯に対応するものとする。
⑶「⑴ ⑵」での教員からの回答で解決が得られなかった場合は、各学部長及び通信教育部長を含め、真摯に対応をするものとする。